

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	有田久美
通学キャンパス			
論文題目	「高齢者の退院支援に向けた 看護師の服薬管理実践評価尺度」の開発		
審査結果(枠で囲む)	合格 不合格		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 研究の概要</p> <p>高齢者医療で問題視されている服薬投与、特に複数疾患をもつ症例で生じている多剤併用に関する薬物有害事象や服薬アドヒアランスの低下をきたすなどポリファーマシーの状態になりやすい現状をテーマにし、この研究テーマを分析することで、有害事象を抑制しながら薬剤の適正な処方や服薬を支援することが可能となり、薬物治療に関する高度で幅広い知識や看護実践力が必要であることについて検証を進めていた。</p> <p>特に、看護師の服薬管理の具体的な実践とは何かその詳細は明らかにされていないため、服薬管理における看護師の役割や看護実践を評価する指標が必要となる。そこで、評価に必要な尺度を開発することで、数量的に看護実践を測定することが可能となり、看護師自身にとって成果が見えにくい実践を可視化し、その内容を意識化することで服薬管理の看護実践の評価や、質の測定などに役立つと考えられる。本研究の目的は、高齢者の退院支援へ向けて、病棟看護師の服薬管理実践を測定する評価尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証することであると、研究を実践した。</p> <p>研究手順は2段階で構成され、【研究1】「尺度の原案開発」および【研究2】尺度を使用した調査の実施と信頼性妥当性の検討で構成されていた。特に【研究2】では全国の200床以上の特定機能病院もしくは地域医療支援病院の看護師を対象として149病院へ調査依頼をし、調査協力可能な42病院へ2847部発送し、郵送調査を実施した。調査内容は、基本属性、本尺度(44項目)に加え、基準関連妥当性を確認するために、外的基準として「看護師ヒューマンスキル尺度」を使用した。分析は、記述統計、探索的因子分析、確認的因子分析によりモデルの適合度を用いて関連付けを明らかにしていた。</p> <p>解析内容から論じられた本研究の新規性は看護師の服薬管理実践について定量的に測定することができ、看護師の個々の実践の向上や質の高い実践を行うことで、高齢者の服薬アドヒアランスが高まることが予測され、ポリファーマシー対策に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査会は対面開催と書面報告、計2回開催し、12月14日に実施した初回審査で高齢者に限定した理由、取り込み基準、除外基準、研究に関する概念図の確認、研究疑問に対する考察の論旨について論文の修正を求めたところ適切に修正され、口頭試問において書面および対面によって適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主査 金子 純一郎</p> <p>副査 山田 治美</p> <p>副査 横島 啓子</p>		